

- 「生涯学習の視点に立った社会教育の在り方」について  
 ・ 「宮崎県社会教育委員会議提言内容」について

	<p>【全体協議①：「Ⅰ 提言骨子」「Ⅱ 提言に至った経緯」「Ⅲ 提言の目指す姿と具体的な内容」目指す姿について】</p>
委員	<p>「Ⅰ 社会的背景」の部分に「働き方改革による変化」を付け加えていただきたい。学校教育と社会教育の橋渡しとして、要はPTA活動であるが、ここで先生方の時間外労働になってしまう。代わりに地域が補う。</p>
委員	<p>これまでも社会教育と学校教育をつなげるために、「学社連携」や「学社融合」ということで取り組まれてきている。そういった経緯をどのように考えるのか。その基盤の上に立ち、これからどうあるべきか、どう取り組んでいく必要があるのかということなどが提言に出てきたら良いと思う。</p>
事務局	<p>最も重要なのは、「関係機関・学校・団体等との連携」や「子どもから大人まで」という部分であり、学びの循環等、人々が生涯を通じて様々な場や機会で行う学習だと考える。今まで議論してきた視点は、学校教育と社会教育を結びつける「学社連携」、そしてさらに広がった形でお互いウィンウィンの関係の「学社融合」という形だったと思うが、それはどちらかということ「学校教育の立場から社会教育につながる」横の連携であると考えている。</p> <p>今回の提言は、幼児から高齢者まで「いつでもどこでも誰でも何でも」という学びの観点から社会教育と学校教育をつなぐという意味で、もう少し丁寧に説明する必要があるのではないかと考えている。</p>
	<p>【全体協議②：「Ⅲ 提言の目指す姿と具体的な内容」提言①について】</p>
事務局	<p>防災士と同様に社会教育士も、市町村での組織づくりが必要ではないか。</p>
委員	<p>教育委員会で資格を取っても、異動したら活躍の場がないという現状もあるのではないか。</p>
委員	<p>生涯学習を推進するためには、人を育てることも大事で、社会教育士を活用していく必要があるのではないか。</p>
委員	<p>人を育てるためには、〇〇士を育成すれば上手くいくという育て方ではなく、そういった方も一緒に活動しながら、現場で本当の学びができる形ができれば良い。</p>
事務局	<p>学んだことを伝えていき、市町村や地域でどう生かすかというのが重要だと思っている。教育研修センターで、市町村担当者向けに、そういった講座を行っている。</p>
委員	<p>公民館主事が社会教育士の資格を持っておれば効果的であり、市町村としても資格を持つ人材を積極的に育てていくことが求められる。</p>
委員	<p>「子どもたちも地域の一員として主体的に地域に関わることができるような仕組みを構築する。」の部分で、「仕組みの構築」というのは、ある程度イメージされているものがあるのか。行政主導によるものなのか、それぞれの団体・地域に任せるべきものなのか、そういったイメージがあれば教えてほしい。</p>
委員	<p>〇〇市は小・中学校で、地域を知る学びがカリキュラムの中で行われており、小・中学校で一貫性のある学びを今、見直している。</p>

	<p>高校では「総合的な探究」という時間の中で、いかに地域の課題を解決するかというところを生徒が重点的に研究している。例えば、小・中学生や地域を巻き込んだ活動をしている例もある。</p> <p>このように、小・中・高が一緒になって何かやれる機会というのは、つくろうと思えばできると実感している。</p>
委員	<p>先進的な取組だと思う。</p> <p>提言に「子どもたち」とあるので、どうしても小・中学生をイメージしてしまうが、高校生が主体性をもって構築している一つの例であることが分かった。</p>
委員	<p>今、地域と高校のつながりが強くなっており、「総合的な探究の時間」のカリキュラムの中に、いろいろな社会や地域の課題を研究して取り組んでいこうということで、生徒が社会に出ていく場面が結構ある。地域の祭りへの企画参加や、地域資源を生かす取組など、それが、まちを持続可能なものにしていこうという原動力になると思う。</p> <p>【全体協議③：「Ⅲ 提言の目指す姿と具体的な内容」提言②について】</p>
委員	<p>「Ⅰ 社会教育施設（図書館・美術館）」と書いてあるが、例えば芸術劇場や博物館もあるが、図書館と美術館の2つだけなのか。</p> <p>加えて、具体案に「図書館においては、本を手に取りやすい環境や本を読もうとする動機付けを図っていく必要がある。」とあるが、図書館では既に行っていることではないかと思ったので、表現を工夫した方が良い。また、具体案に図書館だけしかないの、美術館の具体案はなくて良いのかと感じた。</p>
事務局	<p>今回の協議で、美術館についての活用促進についてご示唆いただきたい。</p>
委員	<p>市町村によっては子どもたちが美術に携わる機会がない市町村もある。芸術は子どもたちの想像力を育成するためには非常に大事なものであり、何かを創造するための原動力になる機会を増やしていくべきだと思うので、積極的に県で促進していただけるとありがたい。</p>
委員	<p>一般的に社会教育施設を考えると、「図書館」「博物館」「科学技術館」「公民館」「青少年自然の家」などを社会教育施設とくくっているが、その捉え方は間違いないか。</p> <p>市町村にも図書館等があるので、「県立図書館や県立美術館の活用」としないと、社会教育施設は多くあるので、誤解を招くのではないか。</p> <p>具体案を見た限りでは、読書活動に特化していると感じるが、全体として、「学びを広げる」取組かつ課題というところの中の項目なので、もう少し丁寧な表現をしたほうが良い。</p>
委員	<p>現行の県教育振興基本計画には、公民館についての記載がある。第11期中教審（審議中）で地域コミュニティについて議論されており、今後の振興方策として、公民館の役割を明確化していくといった部分があるが、今回は、県の所管施設だけにスポットを当てて、提言した方が良いのかどうか、その方向性を確認したい。</p>
事務局	<p>社会教育施設の捉え方については、確かに公民館、博物館等多岐にわたっているので再度検討させてほしい。</p>
委員	<p>活用促進の具体案の1つ目の内容は、図書館にも美術館にも当てはまることではないか。ただ、個人的には、図書館や美術館が市民や県民向けの講座の開設をしているイメージは実際にはあると思うがわいてこない。</p>
委員	<p>敷居が高く感じるので、例えば、遠足や校外学習で使うなどを積極的に取り入れるアピールをしていくのはどうか。</p>

委員	<p>美術館は夏休みに開催される「子ども美術館」に、子どもが小・中学生の頃は一緒に行っていた。例えば年間数回開催してもらおうと行く機会も増えるのではないかな。</p> <p>また、美術館と図書館と博物館を回るスタンプラリー形式のような遊びを取り入れると、行ってみようという気持ちになるのではないかな。</p>
委員	<p>結構図書館を使うが、子どもが小さい時は本を読みに行くというよりも、意外に絵本自体が遊べるので、よく行っていた。</p> <p>地域包括のイメージで見ると、ある地域では、高齢者の方は介護予防の観点であまり施設に行かず、例えばゲームセンターや、いろいろな遊ぶ場所が居場所になっている。また、ある地域では図書館にかなり高齢者の方々が増えてきているというところで、職員が、返す回数が遅れた時等に、認知が始まったのではないかと気づき、地域との連携で、近くの地域包括センターに情報がいくというのが始まったということを知り、今まで聞いたことのない切り口だと感じた。</p> <p>そういう情報を聞いて、図書館や美術館自体がまちの拠点になりながら、そうしたやりとりしていくというところに、子どもたちも地域にいろいろな人がいるんだよというところを知ってもらおう場として良い取組だと思った。</p>
委員	<p>県内でも、遠い、行きづらいという方のために、著作権がクリアできれば、有料で遠くの方もオンラインで作品を見ることができると良い。</p> <p>また、特別展など作品の説明で背景とかもさらに分かると、勉強になる。</p> <p>移動美術館については、学校に来てくれてとてもありがたい。</p> <p>隣の県立図書館との連携という部分で、例えば県立美術館の作品の横に画家の本を置いておくと、図書館と美術館で連携があると美術館に行ったら絵を見て、隣の県立図書館に行ったら、本を借りるというような流れもできるのかなと思った。</p>
委員	<p>県の総合博物館がリニューアルした時に中身を見せていただき、利用率を上げるためにはどうすれば良いかという視点で見たことあった。</p> <p>そういった視点で、会議を美術館で開き、そこで実際見て意見いただくということも一つの手じゃないかと思う。</p>
委員	<p>町の図書館に授業に必要な図書をリクエストすると、県立図書館からすぐ送ってくれるので非常に助かっている。</p> <p>遠足での活用については、県総合博物館は子どもたちにとっても活動させやすいので行くが、県立図書館と県立美術館となると、やっぱり敷居が高い。先ほど出たスタンプラリーのようなものがあると、行ってよいのだという意識が伝わってくるので、効果的と思う。</p>
委員	<p>県立図書館については、そのよさをもっと前面に打ち出すような企画があってもいいのではないかと感じている。</p> <p>美術館については、美術館を会場にして「こんな研修ができますよ」や、小中高だったら「こういった授業ができますよ」といったものを美術館が企画して、それを地域とか学校に積極的にアピールして、どんどんその活用を呼び込むといったことをされてもよいのではないかな。</p>
委員	<p>例えば、美術館職員が各地域に出かけて、高校生と一緒に、「町に美術館を設けよう」というテーマで、各地域の児童生徒の作品を集めて、空き家等に美術館を設ける等を行うことで、学びはかなり広げられる。図書館も「本を読もうよ」ということではなくて、ビブリオバトルのようにゲーム感のものを、図書館職員と地域がゲーム感覚で本を読む機会を作るような仕組みがあると、もっと学びは広がっていく。</p>
委員	<p>「学びを広げる」という視点から、図書館は本を読んだり、本を貸したりしているだけではなく、調べたい時にレファレンスサービスを利用すると、「こんな本がありますよ。」等調べてくれるので、こういった部分も具体案の中に入ると良いと思った。</p>
委員	<p>「ウ 社会教育関係団体の活性化」についても伺いたい。</p>

事務局	御存知のように社会教育関係団体というのは社会教育法に定められている社会教育に関する事業を行う団体である。会員が減少しているのは、全国的にも同様の流れがあり、やむを得ないところもあり、いろいろと団体が同じような現状ではないかと受け止めている。
委員	高齢者が、会員減少についても、何とかクリアしないと活性化は厳しいものがある。
委員	実は地域連携の準備を進めてきたが、やはり人がおらず、活動は尻すぼみの状況である。お互いに連携したほうが良いのではないかと。いろいろな催しをしても、知られていない。知っていれば、お手伝いするという話になる。情報を共有するためのいろいろな組織の連合会を作ったらどうか。
委員	「公民館を活用したい」と記載してある。 公民館は限られた人の利用になっている。現実的に公民館とのつながりができているのか。地域の活性化も含め、組織を複数作るというより、一体的に行った方がよい。
事務局	公民館というのは、学校に対していろいろと手助けをしてくれている。社会教育の目から見ると、地域の活性化を図るために、地域学校協働活動に入り込み、子どもたちとつながっていくというベクトルもねらいたいと思っている。
【全体協議④：「Ⅲ 提言の目指す姿と具体的な内容」提言③について】	
委員	「共生社会の実現」から御意見を伺いたい。
委員	日常生活の中で、障がいのある人たちと自然に触れ合える機会というのがまずない。だからそういった機会は行政や社会教育関係団体が中心になり、一般の方々が障がいのある方達と自然にふれ合える機会を増やしていくことが必要であり、そこから理解もさらに深まっていくのではないかと思います。
委員	共生社会は障がいだけでなく、「外国人の問題」「LGBT」等、いろいろな立場などになるため、多様性やダイバーシティという言葉だったり、共生社会っていう時はポピュラーなキーワードであったりするが、そこがあまり入ってないということで、そこに違和感を感じた。最近では、SDGs等がしっくりくると思うが、ジェンダー問題や、貧困問題などそういうテーマを見てくると、共生社会のイメージを全員で共有できる。
事務局	提言の「国の動向」の中に、「ウェルビーイング」という言葉を使っており、「一人一人の多様性」「幸せ」といった言葉についてももう少し研究させていただいて、お示してきたらと思っている。
事務局	当課で共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究をしており、障がいのある方が、障がいの有無に関わらず一緒に活動している事例や、生涯学習講座の中に一緒にこういう講座をした事例、有無に関わらず一緒に行動できるような、そういった社会になるにはどうすればよいか等、そういった御意見を聞かせていただきたい。
委員	小・中・高校という中で、障がいのある子どもたちが、どう学校で育っていくのかというところが、社会に出て行く前の子どもたちの価値感をつくる上で、非常に大きなものがある。いろいろな社会団体の方々に協力をいただきながら、チームで支援していて、その子どもを通して、共生社会についてのいろいろな学びを伝えている。
委員	先日、県外に行き、教育長や校長、福祉部局の課長等の合同研修に参加した。その中で子どもの人権や権利、連携体制について協議した。 協議の中で教育と福祉からでは見え方で全く違って、それを共有する場が作られることが、大変良いと思った。

委員	読書県づくりについて、御意見を伺いたい。
委員	読書県づくりの具体例と提言2の県立図書館、県立美術館の活用促進の内容と、少し重なりがあり、その辺りの整理をしていかなければならない。

※ 主なご意見を集約したもの